

1 はじめに

■目的・ねらい

- まちづくり基本方針の具現化に向け、主に公共が担う都市基盤施設の整備の考え方（概ねの規模・配置の考え方や事業主体、事業スケジュール等）を示す
- まちづくりの目標等の実現に向けて、本市が考える都市基盤施設が果たすべき役割について整理し、今後各事業者と実現に向けた調整を行う
- 本方針の対象は、リニア駅前エリア（A=約24.5ha）の都市基盤施設（駅舎、スマートIC、道路、交通広場、駐車場等）とする



2 基盤整備の前提条件

立地特性	広域交流拠点の実現に寄与する都市基盤整備 まちづくりの基本理念（考え方） 新たな甲府・山梨の玄関口として、イノベーションを通じて 圏域全体の価値を向上させる、リニア新時代を象徴するまち	都市基盤分野で大切にすべきこと	人々の交流を促すために快適性や象徴性を 高める高質空間を形成すること 等
社会潮流	不確実性や社会変化に対応する都市基盤整備		仕様規定から性能規定へ 変化を許容する柔軟な設計・整備 等

3 基盤整備方針（分野別）

道路	- 駅周辺市街地からの歩行者系・自転車系モビリティの利用・行動形態に十分配慮した動線等の整備 - 新山梨環状道路と駅前エリアの各施設を円滑かつ冗長性をもって接続する駅南側アクセス道路の整備
広場	- 交通広場の交通結節機能は、リニア新時代の新たな交通需要や次世代モビリティ導入等も見据えつつ、利用者の利便性向上の観点から適宜最適化 - 歩行者滞留や憩い・賑わいを目的とした広場機能は、今後、民間事業者等との土地利用検討とあわせて、位置や形状、整備主体・管理主体等を検討
街区	- 産業・生活・観光が融合し「触媒的な働き」を担う、単一用途ではなく複合用途のまちづくり - 官民連携の相乗効果やまちづくりの自由度を一層高めるため、基本方針で定めた民間活用ゾーンと公的活用ゾーンを一体的に検討し、「官民連携ゾーン」と位置づけ - 都市的土地利用にあたって、浸水対策として垂直避難が可能となるように造成及び建築ルールを設定
雨水排水	- 計画雨水量に対してエリア内外からの雨水排水を既存排水路の再整備にて適切に処理 - 大規模開発に伴う流出量の増加に対応するため、平時も利用可能で流出量を調整する機能を有する施設を設置
高質空間形成	景観、環境、防災をトータルで捉えつつ、利用者の交流を促すような取組を各事業者が検討する中で、事業者同士のデザイン調整を密に進め、新たな甲府・山梨を象徴する一体的な都市空間を実現

まちづくりの目標実現に向けて都市基盤施設が果たすべき役割（詳細裏面）

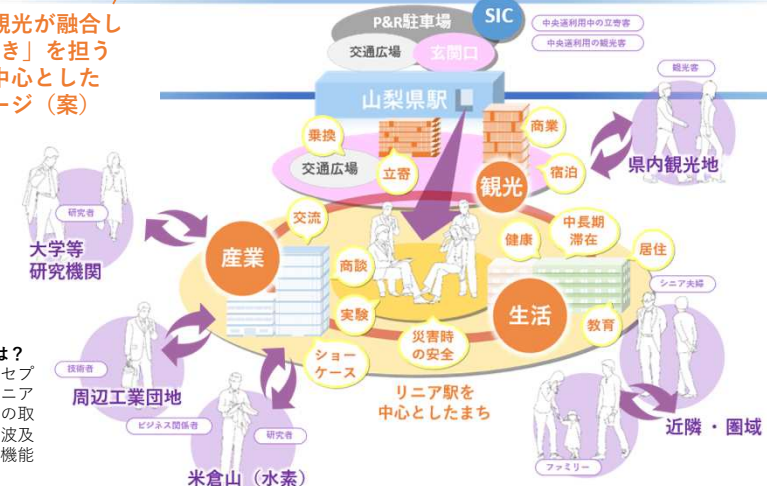
- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| ① 回遊性や快適性の高い
“利用者目線”の基盤づくり | ③ 将来の社会変容に対応する柔軟性の高い基盤づくり |
| ② 多機能な役割を担う
“フェーズフリー”な基盤づくり | ④ リニア新時代の先進性と普遍性をもつ都市空間づくり |
| | ⑤ 多様な主体が連携した一体的なデザインの実現 |

4 基盤整備方針（まとめ）

■基盤整備方針図（平面図）



産業・生活・観光が融合し
「触媒的な働き」を担う
リニア駅を中心とした
まちのイメージ（案）



※触媒的な働きとは？
・ まちづくりコンセプトで定めた、リニア駅前エリア等での取組が圏域全体に波及させる仕組みや機能

4 基盤整備方針（まとめ）

■都市基盤整備の事業区分

NO	事業名	事業主体
1	山梨県駅（仮称）	J R 東海
2	（仮称）甲府中央スマートIC	山梨県／NEXCO 中日本
3	メイン道路	山梨県
4	1号線アクセス道路	山梨県
5	北側交通広場及びP&R駐車場	山梨県
6	南側交通広場及び南側アクセス道路	甲府市 ※民間活力導入検討
7	官民連携ゾーン	山梨県・甲府市・民間事業者等で検討

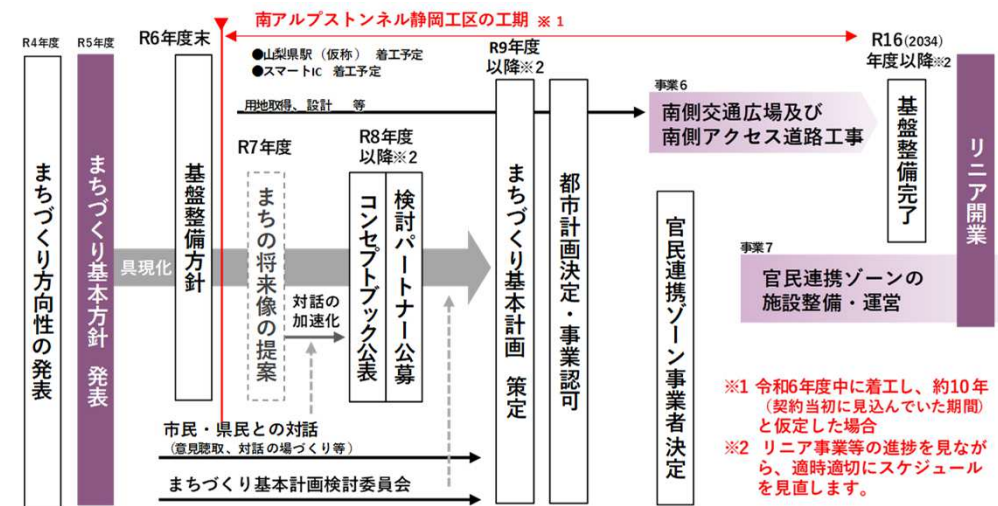
基盤整備の概算事業費（事業6）：約40億円

（用地費、工事費、調査設計費など）
 ※今後、詳細な設計や物価変動を受けて上記金額は変更になります。
 ※上記すべてが市負担額ではなく、今後、国庫補助金などの活用を検討します。
 ※官民連携ゾーンの事業推進にかかる費用は含みません。



■今後の進め方（スケジュール）

- 本市が各種報道発表を基にリニア開業時期を想定し、本市が関与する駅南側エリアのスケジュールを整理
- 今後計画策定や事業推進を行う上で、リニア事業とスマートIC事業の進捗状況を特に注視する



○官民連携まちづくりの進め方

まちの将来像（青写真）の提案

- 本市や圏域スケールの「理想的なまちの姿」をビジュアル化し、それを基に市民等との対話を加速させる

まちづくりコンセプトブックの公表+検討パートナー公募

- 市が考える「基本計画の方向性」を示すもので、先行的に提案するまちの将来像や基盤整備方針を踏まえた開発と条件等について整理する
- コンセプトブックに賛同し、基本計画づくりに参画可能な民間事業者（＝検討パートナー）を公募する

まちづくり基本計画の策定

- 検討パートナーやまちづくりの担い手候補などと、官民連携による実現性の高い計画立案を目指す
- 土地建物利用、交通、エネルギー、都市デザインなどを検討する

まちづくりの目標実現に向けて都市基盤施設が果たすべき役割

①回遊性や快適性の高い“利用者目線”の基盤づくり

- 各事業者が利用者の利便性や快適性を第一に考え、相互に連携を図りながら、新たな甲府・山梨の玄関口に相応しい整備に取り組みます等

②多機能な役割を担う“フェーズフリー”な基盤づくり

- フェーズフリーやグリーンインフラの概念を導入し、環境負荷の低減や災害に強いまちづくりの推進に貢献します等

③将来の社会変容に対応する柔軟性の高い基盤づくり

- 利用者の利便性や施設の運営管理の視点等から市民や民間事業者等とのさらなる対話を行う中で、より良い施設整備になるよう柔軟に設計を深度化させます等

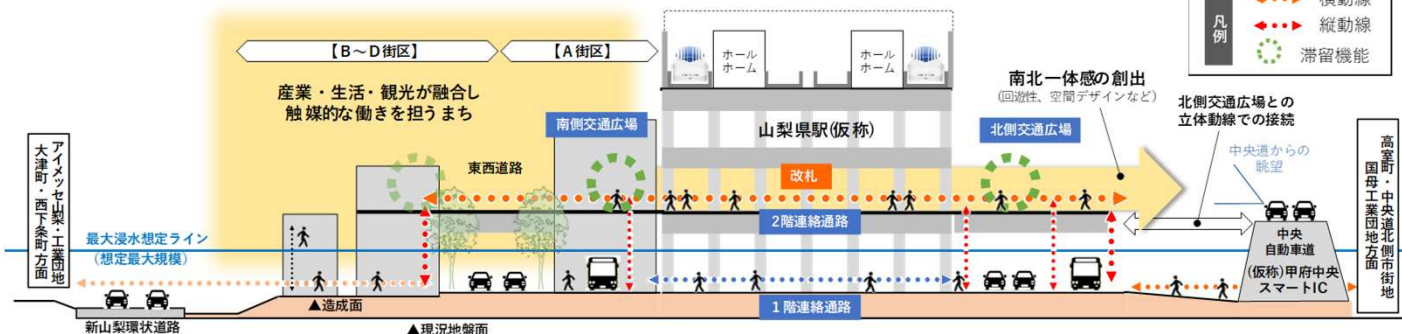
④リニア新時代の先進性と普遍性をもつ都市空間づくり

- 新たな甲府・山梨を象徴するような先進的な設計やデザインを進めつつ、リニア新時代も普遍的な価値を持続できるような都市空間を目指します等

⑤多様な主体が連携した一体的なデザインの実現

- 複数の事業者が存在する当エリアだからこそ、それらが一体的に機能し調和のとれた空間が形成されるよう、相互の調整・連携を強化します等

■基盤整備方針図（断面図）



●造成レベル関係

- 駅南側のB～D街区の造成レベルは、建築物の最上階が最大浸水想定ライン以上になるように、今後の土地利用検討で設定する。
- リニア駅改札の隣接街区（A街区）は、駅舎との接続を考慮し、造成面は駅舎の設計G Lとあわせる。

●歩行者動線関係

- 駅舎内及び南北交通広場付近においては、2階レベルを主要歩行者動線と位置づける。
- 主要歩行者動線を最大浸水想定ラインより高く設定することで、浸水時でもスマートIC経由で浸水エリア外まで避難可能になる。